

痛みからの解放をめざす、「人工関節」を知ってください。



*「関節が痛い.com」は京セラメディカル株式会社が運営しています。

先生があなたに伝えたいこと



遠藤 浩一先生インタビュー：かつては「高齢だから」と痛みを我慢される方も多く見られましたが、最近では「早く治療して、老後を元気に過ごしたい」と前向きに考える患者さんが増えています。近年の人工関節置換術（じんこうかんせつちかんじゅつ）は、体への負担が少なく、早期の社会復帰が期待できます。痛みが続くときは早めの受診をおすすめします。

一般財団法人 恵愛会 聖隷富士病院
えんどう こういち
遠藤 浩一 先生
専門：股関節・膝関節

このインタビュー記事は、リモート取材で編集しています。

股関節の仕組みと疾患

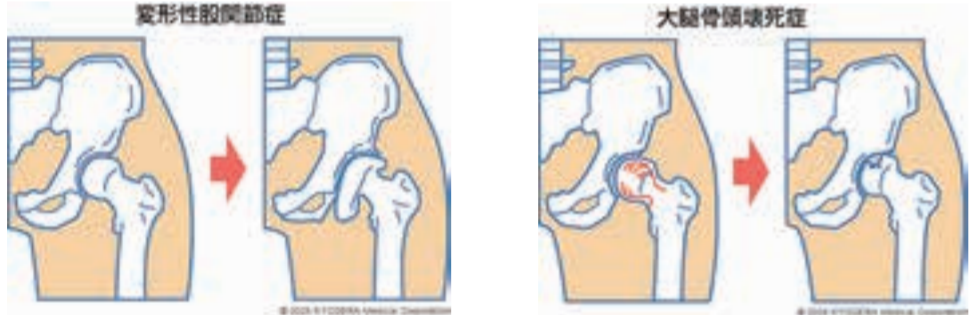
Q1 まず始めに、股関節の特徴や構造について教えてください。

A1 股関節は、体重を支えるうえで最も重要な関節の一つです。大腿骨と骨盤で構成されており、大腿骨の先端にあるボール状の大腿骨頭（だいたいこつとう）が、臼蓋（きゅうがい）という骨盤の受け皿にはまり込むような構造になっています。さらに、関節の表面は軟骨というクッションで覆われており、周囲を靭帯や筋肉がしっかりと支えています。こうした構造によって、股関節は人体の中でも特に広い可動域と安定性を維持しています。



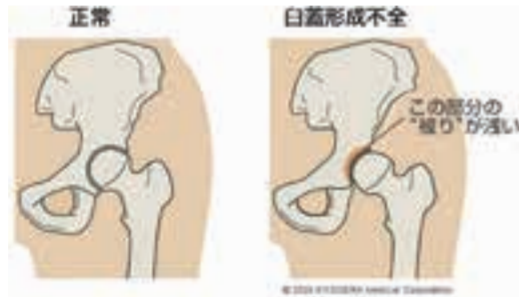
Q2 股関節に多い疾患について教えてください。

A2 股関節の疾患で最も多いのは、変形性股関節症（へんけいせいこかんせつしょう）です。関節の軟骨がすり減ることで骨と骨が直接こすれて、痛みが生じる疾患です。ほかに、ステロイド治療歴やアルコール多飲歴の方に多い大腿骨頭壊死症（だいたいこつとうえししょう）や関節リウマチなどがあります。



Q3 変形性股関節症になる原因は何ですか？患者さんの特徴はありますか？

A3 変形性股関節症の主な原因は、臼蓋形成不全（きゅうがいけいせいふぜん）です。臼蓋形成不全とは、骨盤の受け皿である臼蓋の形成が不完全で、大腿骨頭を十分に覆っていない状態のことです。臼蓋が浅いため、年齢を重ねるにつれて大腿骨頭との間に摩擦が生じ、軟骨がすり減って股関節が変形してしまいます。臼蓋形成不全は女性に多くみられることから、変形性股関節症の患者さんは中高年の女性が多数を占めます。

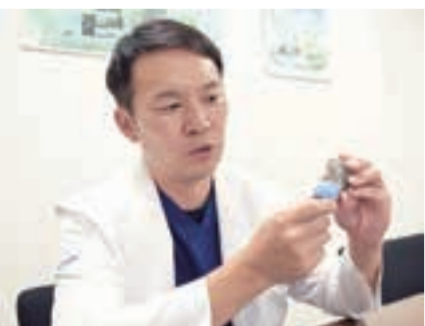


Q4 患者さんはどのような症状で来院されるのでしょうか？

A4 股関節の痛みのほか、「靴下を履きにくい」「足の爪が切りにくい」といった股関節の動きの制限や、歩きづらさを感じて来院される方が多いです。症状が進行すると、就寝中も股関節の周辺に痛みを感じる「夜間痛」に悩まされ受診されるケースも少なくありません。

Q5 治療法について教えてください。

A5 股関節の治療は、痛みや関節の変形の程度、年齢、生活スタイルに合わせて、大きく「保存療法」と「手術療法」に分類されます。保存療法では、リハビリテーションや痛み止めなどを用いた薬物療法、体重コントロールを含めた生活指導を行い、痛みを和らげ関節症状の進行を予防し、日常生活の質（QOL）を維持することを目指します。こうした保存療法でも痛みが改善しない場合は、手術療法を検討します。



Q6 どのような手術になりますか？

A6 傷んだ股関節を人工の関節（インプラント）に置き換える人工股関節置換術（じんこうこかんせつちかんじゅつ）を行います。骨盤側の臼蓋には半球状のカップ、大腿骨にはステムというインプラントを入れます。ステムの先

端には大腿骨頭の代わりとなる骨頭ボールを取り付け、カップとの間には軟骨の代わりとなるポリエチレンライナーを挟みます。これにより痛みが和らぎ、股関節の動きや歩きづらさが改善します。

人工股関節置換術の例



Q7 先生は身体に負担の少ない手術を行っているとのことでしたが、どのような手術でしょうか？

A7 筋肉をほとんど切らない前方からのアプローチによる、身体への負担が少ない最小侵襲手術（MIS：エムアイエス）を行っています。これは周囲の筋肉や靭帯などをできるだけ温存する手術です。手術時の出血や術後の腫れも少なく、術後の痛みの軽減にもつながり、早期の社会復帰が期待できます。手術を受けられる方の年齢や手術前の歩行状態にもよりますが、早い方では術後3日で杖なし歩行が可能となり、1週間前後で退院される方もいらっしゃいます。

膝関節の仕組みと疾患

Q8 次に、膝関節の特徴や構造についても教えてください。

A8 膝関節は、大腿骨（ももの骨）と脛骨（けいこつ：すねの骨）、膝蓋骨（しつがいこつ：膝のお皿の骨）で構成されています。股関節と同様に、日常生活の動作に欠かせない重要な関節です。骨の表面は軟骨で覆われており、大腿骨と脛骨の間には、クッションの役割をもつ半月板という組織があります。さらに、周囲を支える靭帯や筋肉によって、関節の安定性が保たれています。



Q9 膝の痛み悩んでいる方は多いと思いますが、膝の痛みはなぜ起こるのでしょうか？患者さんの特徴についても教えてください。

A9 膝の痛みの原因で最も多いのは、変形性膝関節症（へんけいせいひざかんせつしょう）です。これは、軟骨がすり減ることで骨同士が直接ぶつかり、痛みが生じる疾患です。そのほかに、関節周囲の炎症や骨棘（こつぎょく：骨のとげ）による刺激、筋力低下、関節内に水が溜まる関節水腫など、膝関節の痛みの原因はさまざまです。膝関節の痛みは、中高年以上の女性に多くみられます。体重が増えたと膝への負担が増すため、変形性膝関節症になるリスクも高くなります。



Q10 膝関節の軟骨がすり減る原因は何でしょうか？

A10 膝の軟骨がすり減る原因には、加齢や肥満・生活習慣・関節の構造的問題、外傷や炎症などの複数の要因が関係しています。筋力をつけて膝への負担を減らしたり、日常生活の工夫によって軟骨のすり減りの進行を遅らせたりすることが可能です。

Q11 治療法について教えてください。

A11 股関節と同様に、治療法は「保存療法」と「手術療法」に分けられます。軽度の膝関節痛の場合は、まず保存療法として太ももの筋肉を鍛える運動療法や、鎮痛薬を用いた薬物療法、減量などの生活指導を行います。膝サポーターやインソールを用いた装具療法も有効です。保存療法で十分な効果が得

人工膝関節単顆置換術



人工膝関節全置換術



られない場合や痛みが強く生活に支障が出ている場合には、手術療法を検討します。手術療法では、すり減った関節の表面を人工の関節に置き換える人工膝関節置換術や膝の骨の向きを調整して膝にかかる負担を分散させる骨切り術があります。人工膝関節置換術には、傷んだ内側または外側の関節面のみを人工関節に換える人工膝関節単顆置換術（じんこうひざかんせつちかんじゅつ：UKA）と、内側と外側の両側の関節面を換える人工膝関節全置換術（じんこうひざかんせつぜんちかんじゅつ：TKA）があります。

股関節・膝関節共通

Q12 先生が手術に際して心がけていらっしゃることはありますか？

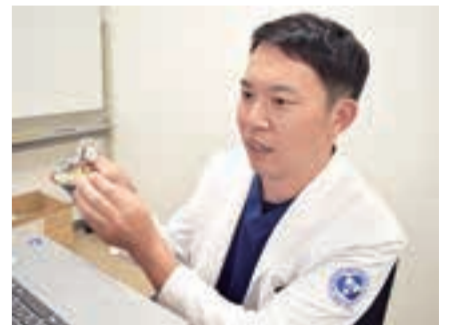
A12 手術のリスクを抑えて安全に、正確な手術を行うことを常に心がけています。手術前には、CT画像をもとに人工関節の設置位置やサイズ、骨をどこでどの程度切るかを3次元でシミュレーションし、重要なポイントを把握します。手術中も、放射線透視装置を用いて、骨切り位置や人工関節の設置位置の確認を行っています。また、患者さんの早期回復や術後の痛みの軽減につながるように、できるだけ低侵襲で短時間の手術を意識しています。術後は、クーリング（アイシング）システムと呼ばれる冷却装置を使用し、術後の炎症や腫れを抑えるようにしています。これにより、術後の痛みが軽減され、リハビリが以前よりスムーズに進んでいます。

Q13 患者さんによっては高齢で一人暮らしだったり、介護をされていたりと生活環境が様々だと思いますが、サポート体制はあるのでしょうか？

A13 高齢の方でも安心して術後の療養やリハビリに取り組めるよう、医師・看護師・リハビリスタッフなどが連携してサポート体制を整えています。また、高齢で一人暮らしの方や退院後の生活に不安がある方は、当院の地域包括ケア病棟へ移っていただき、自信を持って自宅退院できるレベルまでリハビリに取り組みます。介護が必要なご家族がいるために入院をためらわれている方には、そのご家族に一時的に入院してもらう「レスパイト入院（介護家族支援入院）」を実施している医療機関や介護施設もありますので、相談してみるとよいでしょう。

Q14 とは言い、手術は怖いと感じる方は多いと思います。手術を受ける方はどのような段階で決断されるのでしょうか？患者さんの迷いや不安へのサポートについても教えてください。

A14 痛みで日常生活に支障が出ている方だけでなく、痛みを軽減して趣味や旅行を楽しみたいという方も、手術を決断されることが多いです。手術をするかどうかは、あくまで患者さんご自身に判断していただくことを大切にしています。そのため、診察の際には不安や疑問、心配事などをしっかりお伺いし、納得されたうえで手術を受けていただいています。迷われている方には、痛みが改善するほどの程度動けるようになるイメージしてもらえよう関節内に痛み止めの注射をして、痛みが和らいだ状態を体感していただくことも可能です。



Q15 治療にあたって先生が心がけられていることはありますか？

A15 患者さんを自分の家族のように思い、診療にあたっています。一人ひとりの生活スタイルや価値観に合わせて最適な治療を提案し、できるだけ早く痛みを和らげて日常生活に戻っていただけることを大切にしています。さらに、患者さんが手術を受けたことを忘れるくらいの手術を目指し、術後の経過も長期にわたって見守っていきたくと考えています。

Q16 実際に手術された方からはどのような声が届いていますか？

A16 手術を受けられた患者さんからは、「手術前の痛みが嘘みたいになくなり、もっと早く手術すればよかった」「また旅行に行けるようになって人生がまた楽しくなった」など、日常生活での変化を喜ぶ声を多くいただいています。そうした言葉が、日々の診療の励みになっています。

Q17 最後に、関節の痛み悩まれている方にメッセージをお願いします。

A17 股関節や膝関節の痛みは「年齢のせいだから仕方ない」と我慢される方も少なくありません。しかし、早めに専門の医療機関に受診することで、進行を防いだり、痛みを軽くしたりできる場合が多くあります。日常生活に支障を感じたら、ぜひ早めにご相談ください。適切な診断と治療を行うことで、患者さんのQOL向上につなげていきたいと思っています。



*本ポスターで述べられている内容は医師個人の見解であり、特定の製品等の推奨、効果効果や安全性等の保証をするものではありません。また、内容が必ずしも全ての方にあてはまるわけではありませんので詳しくは主治医にご相談ください。

リモート取材日：2025.9.12

バーコードリーダーで読み取ってください。
携帯電話・スマートフォンからもご覧いただけます。
*携帯電話・スマートフォンからアクセスしていただく場合、パケット通信料は、お客様のご負担となりますので予めご了承ください。



これからも、歩いていくために...

